

富山県利賀村の地域的特性と村おこし

山 崎 嘉 子

富山県東砺波郡利賀村は富山県南西部の岐阜県境に位置する山村である。隣接する平村、上平村と共に五箇山と呼ばれ、古くから行政圏、経済圏、文化圏を共有してきた。

平家の落人が遁入して集落を作ったという伝説があり、近世は加賀藩の重罪人の流刑地、塩硝の生産地となったために一層秘境性、隔絶性が強められた。

冷涼な気候のため農林業の発展が妨げられ、冬季は豪雪によって平地との交通が遮断され、陸の孤島と化していた。

昭和30年より始まった高度経済成長によって人口が都市に流出、当初は二、三男を中心としたものであったが昭和30年代は挙家離村が続出、加速度的に過疎が進み廃村となる集落も現れた。

利賀村では昭和22年に4200人だった人口が昭和50年には1500人まで減少、日本一の過疎地域となった。

大正末期より庄川本流で始まった電源開発の恩恵も少なく、国道156号線、304号線の開通した平村・上平村と比較して交通事情は格段に劣り、工場誘致がそれに続くこともなかった。若年層の戦場が無いこと、医療・教育体制の不備が過疎の主な原因として考えられる。

これらの対策として、人口流出を抑止し、若者の定住と所得の増大を目指して展開されているのが村おこしである。主な例を挙げると、

1. 過疎対策条例：入村者優遇、産業振興への援助、定住奨励に関する事項を定める。
2. 生活基盤整備事業：昭和50年より道路、施設の整備が急速に進んだ。現在最も期待されているのは平村と連絡する新山の神トンネルで、平成3年3月開通予定である。
3. 地場産業の振興：零細な事業所が殆んどであるが、山菜加工、マタタビ酒、麺、木工民芸品の製造、イワナ養殖など利賀村らしい特徴を備えている。森林組合の製造する「清流素麺」が好評で、今後の発展が期待される。

4. 観光：村おこしとして最も力を入れられているのが観光である。口山方面の温泉保養ゾーン、上百瀬地区の芸術文化ゾーン、坂上地区の山村文化体験ゾーンの3つに分けられる。口山方面では大牧温泉、越中庄川峡簡易保険保養センターの人气が高い。上百瀬地区では昭和51年の劇団SCOT入村、昭和57年の世界演劇祭開催をきっかけに、芸術文化性の強い合掌文化村の建設が進んでいる。坂上地区ではそばの郷、瞑想の郷などの山村文化体験施設が話題を呼んでいる。

利賀村の観光の特徴は下記の通りである。

- (1) 滞在型観光であること。
- (2) 利賀フェスティバル、雪祭り、山祭りなどのイベントが重要な位置を占めている。
- (3) 自然との結び付きが強い。
- (4) 都市との共存共栄を目指している。
- (5) 利賀村にしかないものを提供する。
- (6) 利賀村役場が中心になって企画している。

利賀村は交通の便が悪いために、観光客を呼べる特別な新しいものを用意しなければならなかった。しかしそれゆえに個性とインパクトの強い観光地となったのである。

村おこしの中で最も効果を上げているのは観光であるが、歴史が浅いこともあり、まだ産業として成り立つには至っていない。

しかし部分的には地場産業の売上高や、観光施設の雇用者数の増加などの経済効果を上げており、村の活性化につながる可能性は非常に高い。

最近では村役場だけでなく、村民が企画する村おこし事業も見られる。

昭和50年からの短期間に急激に進められた村おこしは、地域の発展を急ぐあまりに長期的な展望を持たず、次々に手をつけていったという印象も受ける。今後はこれらを定着させていくこと、そして村全体をもう一度見直していくことが大切であろう。